

# 大阪府退教情報

23年11月1日発行第39号  
発行者:大阪府退職教職員連絡協議会 代表:林誠子  
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 大阪教組気付  
電話 06-6762-7999

10.23退女教・府退教  
合同学習会

## 「誰が維新を支持したか」

松本創さん 「維新は身近な改革を強調して浸透し、大きく伸長した。  
検証・批判は大事だが、ポジティブなイメージの提起が重要」



雑誌『世界』の6月号で松本創さんは「維新の政策や政策手法に危うさを感じ、批判的に見ているのは私も同じだ。しかし自分の考えと異なるからといって、広く支持されている現実を認めず、支持者を見下したり罵倒するような言説には与しない」と書かれていた。それで松本さんを推薦し、今回の学習会の講師に招くことになった。松本さんは取材をもとに多面的な報告をされている。限られた時間で色々なテーマに言及されたが、その概略をお知らせする。

冒頭に「大阪・関西万博まで1年半。現状は」の話があったが紙面の都合で省略する。

### 「なんで維新はこんなに勝ち続けるのやろ」

維新に色々な問題はあるが、選挙では勝つ。最近の東大阪市長選・市議選でも、野田市長は今まで自公推薦だったのに、今回維新公認へ鞍替えした。維新は市議会でも第1党になった。非維新側はジリジリ負けていく。なんでやろう？

#### ●「非維新」側に問題はなかったのか？

\*非維新側は争点設定の主導権を維新に握られ、代わるビジョンを示せていない

\*批判・反対に終始し、「既得権」擁護のイメージが強い

\*組織がバラバラで戦略が欠けている  
(自民大阪府連、連合⇨自治労、解放同盟…)

#### ●「維新の強さ」の理由

\*12年間で安定与党化し、有権者にはそれを変えるモチベーションが生まれていない

\*地域経済・生活重視のイメージが定着

\*個人ではなく「ブランド」への支持になっている(フランチャイズ型)

\*挙党態勢の組織選挙になっている

◇朝日新聞世論調査(2023年5/27. 28実施)では、

比例区

の投票先で日本維新の会が初めて立憲民主を上回る。次期衆院選での比例投票先では、自民36%、維新17%、立憲10%

野党第1党は 維新44%、立憲32%

### 維新の目指すのはワンマンな企業経営

藤田文武幹事長に聞いた。自ら起業・経営してきた藤田氏は政党運営も企業経営になぞらえる。

彼は「政党は経営する時代です」と言う。企業への就活用HPを活用して候補者を募る。候補者集めで力を入れているのが次の2点である。

#### ①間口を広げた【エントリー説明会】

[あなたにもできる！日本維新の会から政治家へチャレンジしませんか？]と呼びかけ、統一地方選向けに5回開催し、計300人が参加した。次期衆院選向けには4回開催し250人が参加している。

#### ②経験のない人を受け入れる【維新政治塾】

藤田氏自身が2012年の第1期生。

今夏に行われた第7期は700人超が応募、550人が受講。

### 間口の広さゆえ、「粗製乱造」の批判も

既成政党では一般人の入口がない。自民党なら業界団体などを通じて地元議員と親しくなるとか、民主系なら労組や市民団体に活動するとか、

何らかのパイプや経験が必要になる。無党派の人間には難しいですよ、という政治塾経験者の話。間口が広いのは悪いことではない。

吉本興業が始めたSNCという学校があるが、これも同じような新人発掘の場。ダウンタウンやトミーズがここから生まれている。次々と人が出て来ることは悪いことではない。

### 維新を自民と比べてみると

- \* 微修正ではなく、社会システム自体を改革
- \* 特定の支持母体ではなく広く国民に支持される政策
- \* 既得権益や旧体制の利権構造を打破
- \* 将来利益最大化主義
- \* 自民流の調整型ではできない一点突破型
- \* 経営的合理性を追求
- \* 地方分権型、多極分散型の統治機構
- \* 富の創出は民間、富の分配と環境整備が公の仕事

### 維新「第2自民党でいい。」

リベラルからは「自民の補完勢力だ」の批判  
イデオロギー対立ではなく、ベンチャー的与党というタイプ

大阪では維新が国政における「与党自民党」と完璧に入れ替わった。(大阪市議会：維新46、自民15 府議会：維新55、自民7)

与党は行政をつかさどり、議会多数派の支持を得ている。だから与党が本気で改革に挑めば大きなことができる。国政・自民の例では中曽根政権の国鉄や電電公社の民営化、橋本政権の省庁再編、小泉政権の郵政民営化。

国鉄改革に似ている一國鉄民営化で国労を潰した。(維新は自治労・大阪市職を攻撃)、労働組合を潰すことで民主系勢力の根拠地を潰そうとしている

サービスが良くなる、車両もきれいになる、消費者としての国民からは「評価される」

### 「政党イメージ」の調査での維新

坂本治也・関西大教授が実施した調査では、  
●「経済的弱者の味方になってくれる」維新12.2%、共産11.2%、自民10.2% ●「一般人の感覚に近い」維新22.3%、自民12.0%、公明7.0%

●「党内がバラバラでまとまっていない」立民45.1%、自民25.7%、国民18.5%→民主党政権時のイメージか？ 安倍の政権の「悪夢の民主党政権」という宣伝によるもの

「行政改革に力を入れ、日本の伝統と文化を大切に」政党として売り込む

維新の「一般人に近い親しみやすさ」には要注目

### 取材から見える維新伸長の背景

☆過去の府政・市政への不信—維新以前の大阪の停滞と不祥事の記憶がある(赤字隠し、WTCとか色々な事業の破綻など)。

☆既存政党への不満も(話を聞いてくれない)。(旧来の中間組織は崩壊し、組織に属さない個人がほとんどになった)

☆既得権益への批判—議員定数削減や報酬カット、文通費への批判…コロナ禍で一層響く

☆身近な改革アピール—私学の無償化、中学校給食の導入、公園再整備、地下鉄民営化

☆実績と比較優位を強調—「野党は反対ばかり」「100点ではないが…」といいながら

☆メディアの問題—首長への「困み取材」が定着、持つべき批判的視点や検証が欠如している。

☆組織の足腰の強さ—府下の首長22人、地方議員245人 これらが選挙に総動員される

不祥事や暴言が頻発しても支持率に影響しない。

『世界』6月号の吉弘憲介論文を紹介しながら、維新の政策⇒頭割りで配る

(個々の事情による給付や手当をカットして、広範囲に配る。個々の事情のある人は全体の中では少数であり、そのような事情を持たない、あるいは理解しない多数者と対立させて実行する)

(多数者に人気のない政策はすぐ引っ込める)

### では、どうするか？答えは簡単ではないが…

維新政治・行政への監視・検証、ファクトに基づく批判は重要だが、それだけでは勝てない。「今あるものを守る・維持する」だけでなく、将来にわたるポジティブな社会像や新しいイメージをいかに打ち出すかが問われる。

政治を担う人材をどう発掘するか。世代交代をはかり、女性を増やすにはどうするか。

旧来のリベラルが重視してきた「弱者・マイノリティへの支援」を維持しつつ、マジョリティの中に生じる「負担があるのに受益がない」という不満や「新たな弱者」にどう向き合い、どう応えていくべきかが問われる。

民主政治とは、独裁者への従順を求めるのではなく、対話・交渉・合意を通じて人々の中に仲間を増やすこと。

### 「維新は政策の議論を嫌がるが」(会場からの質問) に対して

維新内部では異論を許さない傾向がある。議論を避ける。そもそも政策に関心がない。トップダウンの方がスピーディでいいことだと思っている。維新にむかってファシズム的、ポピュリズムだと言っても、届かない。そうでない社会の良さを示すことが必要ではないか。

今日では組織に属する人間は減り、アトム化している。だから中間組織が大切だが、維新はそれを潰してきた。

「中間組織の民主的な再構築が必要ではないか」、学習会の報告をまとめながら考えた。

[文責:太田(副会長)、協力:三上弘志(高退教)]